

研究結果報告書

日本新華僑華人子女教育に関する研究

本課題は新華僑華人の子女教育を研究対象としたものである。

まず、日本華僑華人社会の形成と発展について、華僑華人が日本社会に融合する過程を明らかにした。日本における華僑社会は大きく3期に分類することができ、各期はそれぞれの特徴を有している。第一期（18世紀～19世紀）は各地にチャイナタウンといった華僑華人社会の基盤を作ったが、彼らには強い「思郷」の念があった。第二期（1978年～）の新華僑華人は、日本への留学・就職を主たる目的として来日し定住するが、日本における職業・経済的地位も明らかに向上し、強い理想・信念をもっていた。

第一期、第二期の華僑華人社会と比べ、その子女を「第三期」として位置づけられるかは困難である。日本で生まれ育った彼らは家庭、社会、学校で多文化が交差する環境にあるが、日本社会に溶け込み、自らを日本人として認識している割合が極めて高い。よって、華僑華人子女の最大の特徴は、一つのコミュニティとして捉えられない点である。これに対して、中国の伝統教育を受けてきたその両親（第一期、第二期華僑華人）はその民族文化の伝承を願い、また伝統的な中華思想に基づく教育様式を重んじる。しかし、人間形成や子どもの個性、能力に見合った目標設定を行う日本型教育に馴染んだ子女は、このような家庭内での勉強に対する過度の圧力に倦厭感を抱く。この他にも、価値観や行動様式等をめぐって世代間で衝突が生じ、このことが子女の成長に負の影響を及ぼしている。

しかし、華僑華人子女に関する本研究を通して明らかとなったのは、「文化境界の超越」であった。様々な問題を抱える一方で、自分の立場は周囲とは異なることを認識し、アイデンティティの模索を通して華僑華人子女が辿り着いたのは、国籍、帰属意識を超えたより開放的で多元的な世界であった。このような新しい風が従来の華僑華人社会に大きな変貌をもたらすと同時に、一つの文化による制約を超えた日中両文化の融合の形を作り出したといえよう。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表（題名・発表者名・会議名・日時・場所等）

1、題名：「華人家庭教育における文化伝承－日本新華僑華人子女を例として」

発表者名：鞠 玉華

会議名： 和谐与共赢：国家软实力及华侨华人的作用（国際学術研究大会）

日時：2012年3月10－11日

場所：中国 広州暨南大学

2、題名：海外新華僑華人子女文化伝承状況考論

発表者名：鞠 玉華

会議名：The 5th International Conference of Institutes and Libraries for Chinese Overseas Studies:Chinese Through the Americas（国際学術研究大会）

日時：2012年5月16－19日

場所：カナダの University of British Columbia, Vancouver, B.C., Canada

論文（題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等）

書籍（題名・著者名・出版社・発行時期等）

単著 『文化伝承与文化跨越－日本新华侨华人子女教育研究』（中国語）
澳门文化艺术研究会出版（マカオ文化芸術研究会出版）、2012年6月。